

【幼児教育専攻】 2022 採用試験 合格者インタビュー ①

1 保育者を目指した理由は？

私が保育者を目指したきっかけは、幼少期に出会った先生に感動したからです。公立幼稚園に通っていましたが、私は年長組にいた姉と離れることができず、半年という長い間、年長組で過ごしました。無理矢理に姉と引き裂いて幼稚園に来られなくなるより年長組で幼稚園に慣れるまでのびのびと過ごしたほうがよいとの先生方の配慮の結果でした。幼少期の保育はその人の人生に大きく関わると考えます。私自身が出会った先生方のように柔軟な判断のできる保育者になりたいと思い、保育者を目指しました。

2 大阪大谷はどうだった？

保育士資格、幼稚園教諭1種免許、小学校教諭1種免許の3種の免許・資格を取得することができ、また、コースの学びがあり、幼児教育に力が入っていると感じたことから大阪大谷を選びました。入学してみてよかったことは、なにより先生一人ひとりとの距離が近いことです。また、公立保育職の採用試験対策がしっかりしていて心強かったです。少し大変ではありますが、4年間で3種の免許・資格とコース修了証を取得できることも来てよかったと思う点のひとつです。友達も先生方も良い人が多く、大阪大谷大学で出会った仲間は人生の宝だと思っています。



福森 瑞季さん
(遊び文化コース)
堺市 合格!

3 採用試験はどうだった？

受験対策としては、筆記試験対策として授業の空きコマや4限など、家に帰る前に勉強してから帰るようにしました。ゼミでは毎回先生に面接練習をしていただき、実技試験の前は実技指導をしていただきました。就職したいと考えていた自治体より遠い自治体でも練習になると考え、たくさんの自治体を受験しました。実際の試験では集団討論があり、自分の長所であるリーダーシップと協調性をアピールするため、まずは司会をしたい人がいないか尋ね、いない場合は司会を務めました。個人面接では目を見てにこやかにハキハキと話すよう努力しました。

4 保育者を目指す高校生にメッセージ

乳幼児期に「やってみたい」を重ね、「経験」をする中で失敗もしながら、最後までやり抜いた達成感を感じられる機会をたくさん作ることで、将来「自分は何にをしたいのか」がわかり、「挑戦することができる人」に成長できると考えているので子どもの主体性を大切にする保育者になりたいと考えています。保育職に就くには必須の実習は特に大変だと耳にするとおもうと思います。私も実習は大変で辛かったこともありますが、その反面、やっぱり子どもと関わることの楽しさを再確認できました。実習以外にも保育現場と関わる機会が多く、保育の素晴らしさや奥深さを学ぶことができた貴重な時間となりました。本当に大変だけど素敵な職業だと考えているので応援しています^^。